

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	京都美術工芸大学
設置者名	学校法人二本松学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工芸学部	美術工芸学科	夜・通信	8		8	16	13	
	建築学科	夜・通信		8	16	13		
建築学部	建築学科	夜・通信		8	16	13		
(備考) ・工芸学部建築学科：2022（令和4）年度から学生募集停止。 ・建築学部建築学科：2022（令和4）年度に工芸学部建築学科から建築学部へ改組・開設。設置計画に基づき計上している。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kyobi.ac.jp/wp-content/themes/kyobi/assets/pdf/shien2.pdf 「実務経験のある教員等による授業科目の一覧」を大学ホームページで公開

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	京都美術工芸大学
設置者名	学校法人二本松学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

二本松学院ホームページ https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/33_soshiki.pdf (10頁)
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	京都府宮津市長	2020年4月1日～ 2022年11月13日	学院全体の業務及び 財務全般
非常勤	(株)藤原測量設計事 務所 代表取締役	2018年11月14日～ 2022年11月13日	学院全体の業務及び 財務全般
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	京都美術工芸大学
設置者名	学校法人二本松学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画書(シラバス)の作成過程 <ul style="list-style-type: none"> 1 月 各学科の担当教員にシラバス作成要項に基づき、 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>授業概要、<input type="checkbox"/>到達目標、<input type="checkbox"/>授業計画・内容、<input type="checkbox"/>教科書、<input type="checkbox"/>参考書・資料、<input type="checkbox"/>予習・復習指導、<input type="checkbox"/>関連科目、<input type="checkbox"/>履修上の注意、<input type="checkbox"/>成績評価 の各事項について作成を依頼する。 2 月 教学委員会に諮り了承を得る。 3 月 Web シラバスを学生・教職員に公開 	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/ 大学ホームページで公表している。</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目の成績評価方法については、シラバス作成要項に基づき授業科目の成績評価等を作成している。各担当教員が単位を付与する場合には、どのような観点か評価のポイントになるのか具体的に記載するよう要請すると同時に、提出されたすべてのシラバスを学科長が第三者的立場でチェックを行うこととしている。その成績評価方法は、レポートや定期試験等の点数配分に基づく。また、合格基準となる合計点数を示した科目では、レポートや定期試験等と学生の受講態度との合算結果を 100 点満点で各教員が評価する。</p> <p>進級に伴う基準としては、各学科の専門演習・実習科目については、知識、技術の積み上げの側面が多いため、進級時に当該年次の単位が修得できていない学生は留年にするにしている。また、卒業認定基準は当然のこと、卒業要件である単位を各科目区分ごとに取得していなければ留年としている。</p> <p>学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、履修を認定していると言える。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPAを導入して学びの質を評価しており、学生の1年間の学修状況を確認する資料にGPAを活用している。具体には、学生との学年面談を通して個別学修状況を確認する資料として、単位修得状況に加えて、前期と後期のGPAを比較し、学生の学習意欲を把握できる資料として学生指導に生かしている。

▶ 成績等の表示および成績評価基準

区分	評価	成績評価基準	GP	評価内容(英文内容)
合格	秀	100～90点	4	特に優れた成績を表す。 (Excellent)
	優	89～80点	3	優れた成績を表す。 (Very Good)
	良	79～70点	2	妥当と認められる成績を表す。 (Good)
	可	69～60点	1	合格と認められる最低限の成績を表す。 (Satisfactory)
不合格	不可	59点以下	0	合格と認められる最低限の成績に達していないことを表す。 (Failure)
GP 対象外	認	単位認定科目	—	転編入や留学などにより他大学等で修得した科目を本学の単位として認定したことを表す。 (Credits Transferred)
	W	履修中止	—	所定の手続を経て、履修を中止したことを表す。 (Withdrawal)

▶ GPAの算出方法

$$4.0 \times \text{秀の修得単位数} + 3.0 \times \text{優の修得単位数} + 2.0 \times \text{良の修得単位数} + 1.0 \times \text{可の修得単位数}$$

総履修登録単位数(「不可」の単位数を含む)

(注1) 「認(単位認定科目)」、「W(履修中止)」は、計算式に含まない。また、博物館学芸員養成科目など卒業所要単位数に算入しない科目は、GPAの算出の対象としない。

(注2) 「総履修登録単位数」には、不合格科目(不可評価)を再履修し、合格の評価を得た場合および再履修の結果再び不可評価であった場合の、それぞれ再履修前の不可評価については、通算のGPAには算入しない。ただし、学期ごとに算出するGPAにはそれぞれ算入する。

(注3) GPAは、小数点第4位を四捨五入し、小数点第3位までの数値で、次のとおり成績通知表および成績証明書に記載する。

成績通知表 …… 学期ごとのGPA、通算のGPA

成績証明書 …… 通算のGPA

客観的な指標の
算出方法の公表方法

https://www.kyobi.ac.jp/img/pdf/2-8-1_2022.pdf (74～75頁)
大学ホームページ・学生便覧・大学概要で公表している。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学では、教育目標として謳っている、「社会人基礎力」「学士力」「職業実践力」の三つの力は様々な教養・知識・経験から成り立っている。そこで本学では教育上の目的をより明確化するために、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを定めている。そして、さらに各学科の三つのポリシーを定め大学ホームページ等を通じて周知を図っている。

大科目区分分類として教養教育科目及び専門教育科目に分ける。教養教育科目区分に含まれているコミュニケーション科目及びキャリア形成科目が学生の成長に大きく寄与している。教養教育科目として42単位以上、専門教育科目として82単位以上の合計124単位以上を履修することが必要である。

所定の期間在学し、所定の単位数を修得した学生に対して学士の学位を授与することとしている。

なお、学生には、入学時のガイダンスにおいて学生便覧に掲載している履修モデル等とおして履修ガイダンスを適切に実施している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/
大学ホームページ・学生便覧・大学概要で公表している。

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	京都美術工芸大学
設置者名	学校法人二本松学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/r2_financial01.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/r2_financial01.pdf
財産目録	https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/r2_financial01.pdf
事業報告書	https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/r3_report01.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/r2_financial01.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和4年度事業計画 対象年度:令和3年度)
公表方法:学校法人二本松学院ホームページ 令和4年度事業計画書 https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/34_plan01.pdf
中長期計画(名称:二本松学院の中長期計画、京都美術工芸大学の中長期計画 ※令和2年度事業計画書の中の5~11頁に記載 対象年度:2019~2040年度)
公表方法:学校法人二本松学院ホームページ 令和2年度事業計画書 https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/32_plan01.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kyobi.ac.jp/nihonmatsu/img/nihonmatsu/r2_self03.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.jiheer.or.jp/achievement/archive_year/index.cgi?fyear=13

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工芸学部
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/ 大学ホームページ・学生便覧・大学概要で公表している。)
(概要) 世界を代表する美術工芸文化が息づく京都で、我が国の伝統と文化を尊重し、その継承と文化の創造を担う有為な人材を育成するため、美術工芸に係る教育・研究を行い、併せて教養を身に付けた専門職業人を育てることにより、国家・社会の発展に貢献する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/ 大学ホームページ・学生便覧で公表している。)
(概要) 本学のディプロマ・ポリシーに掲げる素養を身につけた学生に対して所定の期間在学し、所定の単位数を修得することにより、学士の学位を授与する。 詳細な履修及び単位については学生便覧の履修の手引きによりきめ細かに指導している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/ 大学ホームページ・学生便覧で公表している。)
(概要) 本学のカリキュラム・ポリシーにはディプロマ・ポリシーに掲げる素養を修得させるために、下記の方針で教育課程を編成、実施する。 ①教養教育科目、専門教育課程及びその他必要な科目を体系的に編成する。 ②教育目的に合わせて、講義、演習、実習等を適切に組み合わせる。 ③職業実践的な教育内容、協調性やコミュニケーション力を高める教育内容を適切に盛り込む。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/ 大学ホームページ・入学試験要項&入試ガイド等で公表している。)
(概要) 本学のアドミッション・ポリシーに大学の理念、教育目的を理解し、常に自己の可能性を追求していく持続性と熱意を持ち合わせ、真摯に学業に励むことのできる素養を持った学生を求める。

学部等名 建築学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法:https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/ 大学ホームページ・学生便覧・大学概要で公表している。)</p>
<p>(概要) 世界を代表する美術工芸文化が息づく京都で、我が国の伝統と文化を尊重し、その継承と文化の創造を担う有為な人材を育成するため、美術工芸に係る教育・研究を行い、併せて教養を身に付けた専門職業人を育てることにより、国家・社会の発展に貢献する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法:https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/ 大学ホームページ・学生便覧で公表している。)</p>
<p>(概要) 本学のディプロマ・ポリシーに掲げる素養を身につけた学生に対して所定の期間在学し、所定の単位数を修得することにより、学士の学位を授与する。 詳細な履修及び単位については学生便覧の履修の手引きによりきめ細かに指導している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法:https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/ 大学ホームページ・学生便覧で公表している。)</p>
<p>(概要) 本学のカリキュラム・ポリシーにはディプロマ・ポリシーに掲げる素養を修得させるために、下記の方針で教育課程を編成、実施する。 ①教養教育科目、専門教育課程及びその他必要な科目を体系的に編成する。 ②教育目的に合わせて、講義、演習、実習等を適切に組み合わせる。 ③職業実践的な教育内容、協調性やコミュニケーション力を高める教育内容を適切に盛り込む。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法:https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/ 大学ホームページ・入学試験要項&入試ガイド等で公表している。)</p>
<p>(概要) 本学のアドミッション・ポリシーに大学の理念、教育目的を理解し、常に自己の可能性を追求していく持続性と熱意を持ち合わせ、真摯に学業に励むことのできる素養を持った学生を求める。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法:https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/ 大学ホームページ・学生便覧で公表している。</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
工芸学部	1人	7人	3人	5人	1人	0人	17人
建築学部	1人	9人	4人	6人	1人	0人	21人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		59人					59人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.kyobi.ac.jp/subject/teacher/ 大学ホームページで公表している。					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD活動は「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み」であることから、本学は推進体制として、学長を委員長とする「FD推進委員会」を設置している。現在は、自己点検・評価委員会と合同で実施しており学生による授業評価の活用及び大学コンソーシアム京都で開かれる教育内容改善に関する研修講演会への出席などにより教員の教育技法の改善を行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工芸学部	100人	94人	94%	410人	382人	93.2%	5人	1人
建築学部	150人	163人	109%	610人	648人	106%	5人	14人
合計	250人	257人	102.8%	1020人	1030人	101%	10人	15人
(備考) 2022（令和4）年4月、工芸学部建築学科を建築学部建築学科に独立・改組した。 収容定員に変更はないため、工芸学部建築学科の在学生数は建築学部に含まれている。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工芸学部	170人 (100%)	8人 (4.71%)	140人 (82.35%)	22人 (12.94%)
合計	170人 (100%)	8人 (4.71%)	140人 (82.35%)	22人 (12.94%)
(主な進学先・就職先)（任意記載事項） 主な進学先：京都美術工芸大学大学院、武蔵野美術大学大学院、京都工芸繊維大学大学院等 主な就職先：大和ハウス工業（株）、三井ホーム（株）、住友林業緑化（株）、積水ハウス（株）、高松建設（株）、（株）トーセ、コナミホールディングス（株）、兵庫県庁等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
工芸学部	201人 (100%)	164人 (81.6%)	15人 (7.5%)	19人 (9.4%)	3人 (1.5%)
合計	201人 (100%)	164人 (81.6%)	15人 (7.5%)	19人 (9.4%)	3人 (1.5%)
(備考) 2018年度入学生+編入学生 2020年度入学4名も含む					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画書(シラバス)の作成過程 <ul style="list-style-type: none"> 1月 各学科の担当教員にシラバス作成要項に基づき、□授業概要、□到達目標、□授業計画・内容、□教科書、□参考書・資料、□予習・復習指導、□関連科目、□履修上の注意、□成績評価の各事項について作成を依頼する。 2月 教学委員会に諮り了承を得る。 3月 Webシラバスを学生・教職員に公開 3月 新入生・在学生ガイダンス 4月 入学式・授業開始
--

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>成績評価方法は、レポートや定期試験等の点数配分又は、合格基準となる合計点数を示した科目では、レポートや定期試験等と学生の受講態度との合算結果を100点満点で各教員が評価する。</p> <p>進級に伴う基準としては、各学科の専門演習・実習科目については、知識、技術の積み上げの側面が多いため、進級時に当該年次の単位が修得できていない学生は留年にするにしている。また、卒業認定基準は当然のこと、卒業要件である単位を各科目区分ごとに取得していなければ留年としている。</p> <p>大科目区分分類として教養教育科目及び専門教育科目に分ける。教養教育科目区分に含まれているコミュニケーション科目及びキャリア形成科目が学生の成長に大きく寄与している。</p> <p>卒業の認定の基準は次の通りである。</p> <p>[工芸学部美術工芸学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 教養教育科目から42単位以上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教養科目から22単位以上 ・ 伝統文化科目から必修4単位を含む8単位以上 ・ コミュニケーション科目から必修2単位を含む6単位以上 ・ キャリア形成科目から6単位以上 □ 専門教育科目から82単位以上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術工芸科目から48単位以上

<ul style="list-style-type: none"> ・専門演習、実習科目の中に卒業制作を含めて 34 単位 ・合計 124 単位以上を修得することが必要 <p>[工芸学部建築学科]</p> <p><input type="checkbox"/>教養教育科目から 42 単位以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養科目から 22 単位以上 ・伝統文化科目から必修 4 単位を含む 8 単位以上 ・コミュニケーション科目から必修 2 単位を含む 6 単位以上 ・キャリア形成科目から 6 単位以上 <p><input type="checkbox"/>専門教育科目から 82 単位以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術工芸科目から 51 単位以上 ・専門演習、実習科目の中に卒業制作を含めて 31 単位 ・合計 124 単位以上を修得することが必要 <p>[建築学部建築学科]</p> <p><input type="checkbox"/>教養教育科目から 42 単位以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養科目から 22 単位以上 ・伝統文化科目から必修 4 単位を含む 8 単位以上 ・コミュニケーション科目から必修 4 単位を含む 6 単位以上 ・キャリア形成科目から 6 単位以上 <p><input type="checkbox"/>専門教育科目から 82 単位以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門教育科目の中に専門演習・実習科目 31 単位を含めて 82 単位 ・合計 124 単位以上を修得することが必要 				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工芸学部	美術工芸学科	124 単位	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	単位
工芸学部	建築学科	124 単位	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	単位
建築学部	建築学科	124 単位	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/
大学ホームページ・学生便覧で公表している。

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
工芸学部	美術工芸学科	1,190,000 円	150,000 円	360,000 円	
工芸学部	建築学科	1,190,000 円	150,000 円	360,000 円	
建築学部	建築学科	1,190,000 円	150,000 円	360,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生生活をより充実したものとするため、オフィスアワー、クラスアドバイザー、学生面談、健康管理、心理カウンセラー、心理相談などによって収集した学生の情報を一元化・共有して学生のニーズに合致した適切な支援を行っている。 オフィスアワー、クラスアドバイザー、学生面談をとおして単位修得、学習の方法等を支援している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) インターンシップや求人情報を開示するほか、3年生を対象に週1回、「キャリア支援講座」を開講している。企業・業界研究の進め方やエントリーシート、履歴書の書き方指導、面接や筆記試験などの対策を実施している。学生に基本的な知識や心構えなどをまとめた「就活ハンドブック」を配付し、就職に対する意識と意欲が高まるように努めている。一方で、積極的に企業からの訪問を受けたり訪問したりしながら情報収集や企業との関係強化にも努め、適正な就職先の確保に力を注いでいる。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生の健康面の支援として、毎年5月に健康診断を実施している。(受診率は平均90%である。)医務室に看護師が週2日医務に関わる業務を行っている。 学生の精神面の支援として、臨床心理士・大学カウンセラー資格を持ったカウンセラーが週1日予約のあった学生の相談を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.kyobi.ac.jp/about/public_information/ 大学ホームページ・学生便覧で公表している。
--

学則 別表第2 工学学部（美術工芸学科）の授業科目の種類、単位数等（第25条、第27条及び第48条関係）

① 基礎教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数			履修単位
		必修	選択	自由	
教養科目	歴史学	2			22 単位以上を 修得のこと
	森林学概論	2			
	美学	2			
	技芸と文学	2			
	栄養学入門	2			
	生涯学習論	2			
	生活と法律	2			
	博物館概論	2			
	生物と環境	2			
	人と農業	2			
	科学と芸術	2			
	工芸と経済	2			
	伝統と学び	2			
	哲学	2			
	教育学	2			
	世界文化遺産論	2			
	宗教史	2			
	地域社会論	2			
	人間関係の科学	2			
	人間関係の心理臨床	2			
	表現技術論	2			
	初年次演習	2			
小計 (22 科目)	0	44	0		
伝統文化科目	日本工芸美術史	2			必修4 単位を 含む8 単位以上を 修得のこと
	京都学	2			
	伝統芸術入門Ⅰ	1			
	伝統芸術入門Ⅱ	1			
	伝統芸術展開Ⅰ	1			
	伝統芸術展開Ⅱ	1			
	日本文化史	2			
	京都学演習Ⅰ	2			
	京都学演習Ⅱ	2			
	小計 (9 科目)	4	10	0	
コミュニケーション科目	日本語表現法	1			必修2 単位を 含む6 単位以上を 修得のこと
	英会話Ⅰ	1			
	美術工芸英語	1			
	英会話Ⅱ	1			
	英語コミュニケーション	1			
	情報基礎演習	2			
	総合コミュニケーション	1			
小計 (7 科目)	2	6	0		
キャリア形成科目	しごと論Ⅰ	2			6 単位以上を 修得のこと
	しごと論Ⅱ	2			
	社会活動Ⅰ	1			
	社会活動Ⅱ	1			
	インターンシップ	2			
	メディアリテラシー	2			
	現代社会論	2			
小計 (7 科目)	0	12	0		

② 専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数			履修単位		
		必修	選択	自由			
基本科目	工芸概論	2			美術工芸科目の うち48 単位以 上を修得のこと (但し、基本科 目から、選択科 目10 単位以上、 基幹科目及び展 開科目において 選択科目26 単 位以上を選択の こと)		
	建築概論	2					
	伝統工芸概論	2					
	構成基礎演習	1					
	伝統住居概論	2					
	色彩学	2					
	日本美術史	2					
	素描	2					
	デザイン概論	2					
	社寺建築概論	2					
	西洋美術史	2					
	東洋美術史	2					
	伝統絵画技法Ⅰ	2					
	建築計画Ⅰ	2					
	建築構造力学Ⅰ	2					
	文化財概論	2					
	文化財保存概論	2					
	小計 (17 科目)	6	27	0			
	基幹科目	色彩理論演習	2				美術工芸科目の うち48 単位以 上を修得のこと (但し、基本科 目から、選択科 目10 単位以上、 基幹科目及び展 開科目において 選択科目26 単 位以上を選択の こと)
		伝統住居論	2				
		デザイン作図演習	2				
デザインと法規		2					
伝統絵画技法Ⅱ		2					
伝統空間論		2					
伝統建築環境学		2					
文献・絵画史料概論		2					
伝統構造学		2					
伝統建築図 (基礎)		2					
IT 活用応用演習		2					
コンピュータデザイン演習		2					
建築計画Ⅱ		2					
建築一般構造Ⅰ		2					
建築材料	2						
建築法規	2						
建築構造力学Ⅱ	2						
建築環境工学	2						
文化財修理論	2						
文化財マネジメント論	2						
インテリア設計	2						
小計 (21 科目)	0	42	0				
展開科目	伝統工芸産業工学	2			必修34 単位を 修得のこと		
	伝統工芸材料科学	2					
	工芸経営論	2					
	立体造形	2					
	伝統文様	2					
	古文書解読演習Ⅰ	1					
	伝統建築図 (応用)	2					
	室内意匠論	2					
	古文書解読演習Ⅱ	1					
	建築設備	2					
	建築一般構造Ⅱ	2					
	建築施工法	2					
	公共デザイン論	2					
	専門演習	2					
小計 (14 科目)	0	26	0				
専門演習・実習科目	芸術導入演習	2			必修34 単位を 修得のこと		
	芸術導入実習	2					
	造形基礎演習Ⅰ	2					
	造形基礎演習Ⅱ	2					
	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ	2					
	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ	2					
	専門実習Ⅰ	2					
	専門実習Ⅱ	2					
	プロジェクト演習Ⅰ	2					
	プロジェクト演習Ⅱ	2					
卒業制作研究	4						
卒業制作・論文	6						
小計 (14 科目)	34	0	0				

以上、合計 124 単位以上を修得のこと

学則・規程等

学則 別表第3 工学学部（建築学科）の授業科目の種類、単位数等（第25条、第27条及び第48条関係）

① 基礎教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数			履修単位
		必修	選択	自由	
教養科目	歴史学		2		22単位以上を修得のこと
	森林学概論		2		
	美学		2		
	技芸と文学		2		
	栄養学入門		2		
	生涯学習論		2		
	生活と法律		2		
	博物館概論		2		
	生物と環境		2		
	人と農業		2		
	科学と芸術		2		
	工芸と経済		2		
	伝統と学び		2		
	哲学		2		
	教育学		2		
	世界文化遺産論		2		
	宗教史		2		
	地域社会論		2		
	人間関係の科学		2		
	人間関係の心理臨床		2		
	表現技術論		2		
	初年次演習		2		
小計 (22科目)		0	44	0	
伝統文化科目	日本工芸美術史		2		必修4単位を含む8単位以上を修得のこと
	京邦学		2		
	伝統芸術入門Ⅰ		1		
	伝統芸術入門Ⅱ		1		
	伝統芸術展開Ⅰ		1		
	伝統芸術展開Ⅱ		1		
	日本文化史		2		
	京邦学演習Ⅰ		2		
	京邦学演習Ⅱ		2		
	小計 (9科目)		4	10	
コミュニケーション科目	日本語表現法		1		必修2単位を含む6単位以上を修得のこと
	英会話Ⅰ		1		
	美術工芸英語		1		
	英会話Ⅱ		1		
	英語コミュニケーション		1		
	情報基礎演習		2		
	総合コミュニケーション		1		
小計 (7科目)		2	6	0	
キャリア形成科目	しごと論Ⅰ		2		6単位以上を修得のこと
	しごと論Ⅱ		2		
	社会活動Ⅰ		1		
	社会活動Ⅱ		1		
	インターンシップ		2		
	メディアリテラシー		2		
	現代社会論		2		
小計 (7科目)		0	12	0	

② 専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数			履修単位		
		必修	選択	自由			
基本科目	工芸概論		2	0	(8)平成28年度入学生についてのみ「工芸概論」を必修とし「建築概論」は選択とする。		
	建築概論		2	0			
	伝統工芸概論		2				
	構成基礎演習		1				
	伝統住居概論		2				
	色彩学		2				
	日本美術史		2				
	素描		2				
	デザイン概論		2				
	社寺建築概論		2				
	西洋美術史		2				
	東洋美術史		2				
	伝統絵画技法Ⅰ		2				
	建築計画Ⅰ		2				
	建築構造力学Ⅰ		2				
	文化財概論		2				
	文化財保存概論		2				
	小計 (17科目)		6	27		0	
	専攻科目	色彩理論演習		2			美術工芸科目のうち51単位以上を修得のこと
		伝統住居論		2			
		デザイン作図演習		2			
		デザインと法規		2			
発想と表現			2				
伝統絵画技法Ⅱ			2				
社寺建築論			2				
伝統空間論			2				
伝統建築環境学			2				
文庫・絵画史料概論			2				
伝統構造学			2				
伝統建築図(基礎)			2				
IT活用応用演習			2				
コンピュータデザイン演習			2				
建築計画Ⅱ			2				
建築一般構造Ⅰ			2				
建築材料			2				
建築法規			2				
建築構造力学Ⅱ			2				
建築環境工学			2				
文化財修復論			2				
文化財マネジメント論			2				
小計 (22科目)		0	44	0			
展開科目	古文書解説演習Ⅰ		1		(但し、基本科目において選択科目11単位以上、基幹科目において選択科目14単位以上、展開科目において選択科目14単位以上を選択のこと)		
	伝統建築図(応用)		2				
	室内意匠論		2				
	古文書解説演習Ⅱ		1				
	伝統建築論Ⅰ		2				
	伝統建築論Ⅱ		2				
	伝統建築図(発展)		2				
	彫形製作		2				
	建築計画Ⅲ		2				
	建築計画Ⅳ		2				
	建築設備		2				
	建築一般構造Ⅱ		2				
	建築構造力学Ⅲ		2				
	建築施工法		2				
	公共デザイン論		2				
	専門演習		2				
小計 (16科目)		0	30	0			
工学基礎系	工芸実習導入(建築デザイン)		3		必修11単位を修得のこと		
	工芸実習基礎Ⅰ(建築デザイン)		4				
	工芸実習基礎Ⅱ(建築デザイン)		4				
	小計 (3科目)		11	0		0	
	建築デザイン演習Ⅰ		4				
デザイン系	建築デザイン演習Ⅱ		6		いずれかの領域のうち指定された14単位を修得のこと		
	建築デザイン演習Ⅲ		4				
	小計 (3科目)		0	14		0	
	伝統建築専門実習Ⅰ		4				
	伝統建築専門実習Ⅱ		6				
伝統建築系	伝統建築専門実習Ⅲ		4		必修6単位を修得のこと		
	小計 (3科目)		0	14		0	
	卒業制作		6				
共通選	小計 (1科目)		6	0	0		

以上、合計124単位以上を修得のこと

学則 別表第4 建築学部（建築学科）の授業科目の種類、単位数等（第25条、第27条及び第48条関係）

① 基礎教育科目

② 専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	単位数			履修単位	
		必修	選択	自由		
教養科目	歴史学		2		22 単位以上を修得のこと	
	美学		2			
	技芸と文学		2			
	栄養学入門		2			
	生涯学習論		2			
	生活と法律		2			
	博物館概論		2			
	森林学概論		2			
	科学と芸術		2			
	工芸と経済		2			
	伝統と学び		2			
	哲学		2			
	教育学		2			
	世界文化遺産論		2			
	地域社会論		2			
	人間関係の科学		2			
	人間関係の心理臨床		2			
	表現技術論		2			
	小計（18科目）	0	36	0		
	教養教育科目	日本工芸美術史	2			必修4 単位を含む8 単位以上を修得のこと
		京都学	2			
		伝統芸術入門Ⅰ	1			
		伝統芸術入門Ⅱ	1			
		日本文化史	2			
		京都学演習Ⅰ	2			
		京都学演習Ⅱ	2			
	小計（7科目）	4	8	0		
コミュニケーション科目	日本語表現法		1		必修4 単位を含む6 単位以上を修得のこと	
	英会話Ⅰ	1				
	美術工芸英語	1				
	英会話Ⅱ	1				
	英語コミュニケーション	1				
	情報基礎演習	2				
	総合コミュニケーション	1				
小計（7科目）	4	4	0			
キャリア形成科目	しごと論Ⅰ		2		6 単位以上を修得のこと	
	しごと論Ⅱ		2			
	社会活動Ⅰ		1			
	社会活動Ⅱ		1			
	インターンシップ		2			
	メディアリテラシー		2			
	現代社会論		2			
小計（7科目）	0	12	0			

科目区分	授業科目の名称	単位数			履修単位	
		必修	選択	自由		
専門教育科目	基本科目	伝統工芸概論		2		専門教育科目のうち82 単位以上を修得のこと (但し、基本科目において選択科目11 単位以上、基幹科目において選択科目14 単位以上、建築展開科目において選択科目14 単位以上を選択のこと)
		構成基礎演習		1		
		日本住居史		2		
		色彩学		2		
		日本美術史		2		
		デザイン概論		2		
		日本建築史		2		
		西洋美術史		2		
		東洋美術史		2		
		建築計画Ⅰ		2		
		構法計画Ⅰ		2		
		建築構造力学Ⅰ		2		
		建築CAD 演習Ⅰ		2		
		建築概論		2		
		文化財概論		2		
	小計（15科目）	0	29	0		
	美術工芸科目	デザイン作図演習		2		
		デザインと法規		2		
		都市空間論		2		
		景観デザイン論		2		
		文献・絵画史料概論		2		
		伝統構造学		2		
		建築CAD 演習Ⅱ		2		
		建築計画Ⅱ		2		
		構法計画Ⅱ		2		
		建築材料		2		
		建築法規		2		
		建築構造力学Ⅱ		2		
		建築環境工学		2		
		世界建築史		2		
	小計（14科目）	0	28	0		
展覧科目	古文書解読演習Ⅰ		1			
	伝統建築図		2			
	京町家再生論		2			
	古文書解読演習Ⅱ		1			
	社寺建築論		2			
	近代建築史		2			
	室内意匠論		2			
	建築計画Ⅲ		2			
	建築計画Ⅳ		2			
	都市計画		2			
	建築設備		2			
	建築構造力学Ⅲ		2			
建築生産論		2				
公共デザイン論		2				
小計（16科目）	0	26	0			
専門演習・実習科目	建築設計導入実習	3			(但し、専門演習・実習科目において必修31 単位を修得のこと)	
	建築設計基礎演習Ⅰ	4				
	建築設計基礎演習Ⅱ	4				
	建築設計演習Ⅰ	4				
	建築設計演習Ⅱ	6				
	建築設計演習Ⅲ	4				
	卒業研究	6				
小計（7科目）	31	0	0			

以上、合計 124 単位以上を修得のこと

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F126310107724
学校名	京都美術工芸大学
設置者名	学校法人二本松学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		98人	92人	103人
内 訳	第Ⅰ区分	53人	56人	
	第Ⅱ区分	28人	27人	
	第Ⅲ区分	17人	—	
家計急変による支援対象者（年間）				—
合計（年間）				103人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準時間数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	—		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	—	前半期		後半期	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	—		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。